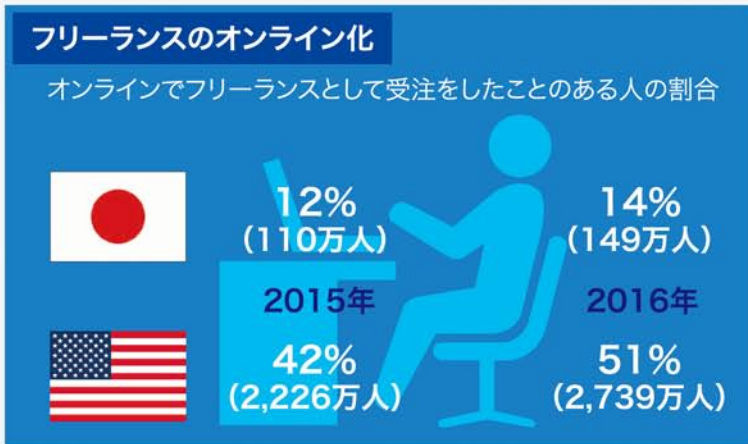


壊れゆく“若者たち”

『File.36 デジタル症候群(36) ~インターネットによる「働き方の進化」と「感情の退化」』

文 石井 通明 text by Michiaki Ishii



出処:THE LANCER編集部 「フリーランスの実態調査2016より」

日本最大級のクラウドソーシングを提供しているランサーズ社によって、2016年に国内の20歳から69歳の約3000人を対象に「フリーランス実態調査」が行われました。この結果、対象年齢の7人に1人はインターネットによる仕事を獲得していることが明らかになりました。この回答者のうちの45%が、インターネットでの仕事の利点を「自由な働き方が出来る点」と挙げています。

一方で、フリーランスの働き方が浸透しているアメリカでは、2016年

時点で労働人口の約35%（5500万人）がインターネットでの仕事をしているという調査結果が出ています。2020年にはアメリカの労働人口の50%、つまり半分がフリーランスになる予想もあり、働き方そのものが形を変えていくと言えます。

こうした働き方の変革を裏付ける背景として、ネット社会における全世界のデジタルデータ量の増加があります。2020年には全世界のデジタルデータ量が44ZB（ゼタバイト）に達すると言われており、これは現在我々が使っているIT端末のGBと比較すると『44兆GB』ということになります。この数字は「世界中に存在する砂浜の砂の数」とも言われており、どのくらい途方もない数字か窺えます。

飛び交う情報によって、世界が形成されるようになります。人間の行動分析により、最も効果が高く、最も無駄が無く、判断に困らない時代になって



Profile
 東京都大田区生まれ。
 英国ウエールズ大学MBA（経営管理修士）。
 日本交渉学会会員。ハーバード流交渉学・消費者行動心理学・コンフリクトマネジメントを研究。日本コールセンター協会情報調査委員。
 ㈱グッドクロス取締役COO。
 長年コールセンター運営に携わり、人と人のコミュニケーションについての研究を進めている。思いやりのコールセンターを展開。
 beccall1031642012088
<http://www.beall.jp>

いきます。その時に人は、必ずしも会社のような空間に集まって仕事をする必要がなくなるでしょう。

私が依頼をしているフリーランスの方で、青森県に住んでいる方がいます。雪が多い季節は、日々働きに出ることも簡単では無いと言っていました。それが自宅で満足に仕事が出来ようになるのです。いまやインターネットがあれば、データの受け渡しだけではなく、テレビ会議も容易です。作成して欲しい原稿やデザイン依頼は、日本中、いえ世界中どこでも対応ができます。

働き方が変わっていく中で、旧態依然とした企業文化、組織文化、人間関係は淘汰されていくと言えます。人と人の交流によるストレスを望まない社会になります。効率的かもしれないかもしれませんが、人間らしい感情のやり取りがなくなることは、決して望ましいことではありません。